

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 感情の論理 vol.32 「躊躇させないために」

人の感情の特徴として、「決断を迫られると躊躇すること」が挙げられます。誰もが決断をすることには二の足を踏みます。判断と決断の違いを簡単に説明すると、判断とは「どこかにある答えを探すこと」です。どこかに必ず答えがあるのですから、それを専門家に委ねることもあります。「この食事代は厚生費か交際費か…」と迷ったときは、税理士に判断を任せますよね。

それに対して決断とは、どこにもない答えを自ら作っていく「決意」のようなものです。「目の前の女性二人のうち、どちらと結婚すれば幸せになれるか…」という問いには答えはありません。選んだ女性と一生を掛けて正解を作っていくのです。それが「決断」です。

塾経営とはある意味、決断の連続です。それを躊躇していると、全てにおいて手遅れになってしまいます。前例主義とは、決断のできない人、組織に蔓延する慢性病です。また、そんな大切な決断を他者に委ねてはいけません。経営者が自らの責任で下すべきものです。

ところで、この「決断を迫られると躊躇する傾向」は当然のことながら、「客」の側にも存在します。例を挙げると次のようなことです。体験学習期間の終了後、家庭に電話を掛けます。いわゆる入塾を促すセールスコールです。

教室長：体験期間が終了しますが、いかがでしょう。

ぜひ、このまま入塾をお願いしたいのですが…

保護者：…それでは子供と相談して、また、こちらからお電話します。

教室長：はい。ではお待ちしておりますので、よろしくお願いします。

そのまま電話が掛かって来なかったことが何度もあるのでは

ないでしょうか。一つは、「お前、入塾するのか、しないのか!」と刃（やいば）を突きつけられると、人は思考停止に陥り、保留状態に逃げ込むという性質のせいです。

もう一つは、一度保留にしてしまった塾に対する「後ろめたさ」があり、「やっぱり、お世話になりたい」という申し出がしにくい状態にあることが原因です。こうした状況を避けるにはどうすれば良いか。

これは、私が推奨している「ダイレクト・レスポンス・マーケティング」の応用なのですが、最初の面談のときに次のように伝えておくことです。

「当塾の指導を知ってもらうために、お客様扱いはせずに体験期間も他の塾生と同じように扱います。宿題も出しますし、場合によっては居残り学習もしてもらいます。体験最終日も同様に宿題も出し、次の授業の教材等を準備して席もそのまま確保して起きます。もし、当塾が合わないご判断されれば、電話一本で結構です。いつでもキャンセルのご連絡を入れて下さい。」

つまり、こちらからセールスのコールをするのではなく、相手にキャンセルのコールをしてもらう仕組みにしておくのです。そのためには、体験期間を2週間程度に設定しておくといいでしょう。2週間も通塾していると、塾に通うことが「日常」になります。

もともと、塾人はセールスが苦手です。その苦手なセールスを極力しないで済む仕組み作りをしておくことです。

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouku.co.jp/>

業界  
TOPICS

## vol.07 今後の教育行政に何を期待するか？

民主党政権となり、補正予算案の予算削減が進行中ですが、来年からスタートする子供手当や高校の授業料の実質無償化など、民主党が力を入れる教育行政にも国民の期待と注目が集まっています。国民の負担を軽減するこれらの政策は、塾業界にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 各地の塾に聞いてみました。

### 進学塾はあまり影響がないのでは？

進学A塾

「子供手当にしても高校の授業料の実質無償化にしても、私どものような都会の進学塾にはあまり大きな影響はないと考えます」

### 市場の活性化を期待するが、選択肢のトップでなければ意味がない

地域一番B塾

「子供手当で支給により、塾に通ってみようという新たなニーズが掘り起こされ、市場が活性化されることを期待しています。あまり過度な期待はできませんが、活性化された市場において、選択肢の中でトップにチョイスされる良質な教育提供のできる塾であり続けたいと思います」

### 中所得者層以上でない限り効果は期待できないかも・・・

独自の指導を展開するC塾

「低所得層は家計に組み入れてしまうでしょうね。むしろ、中所得層以上が多少なりとも教育費として活用してくれることを期待していますが、塾の教育に実質的なものを親は望んでいるので、さらなる質の向上を図って、お金をかけるならこの塾へという気持ちにさせたい。成績向上と合格実績UPが塾にとって至上命題

です。私立高校が大変になりそうですが、地域一番塾として公立高校志望の生徒の満足度を高める必要があると感じています」

### 塾離れの抑止剤になるのか？

大手D塾

「経済効果を期待するのは危険ですね。塾として、子供手当で通塾してくださいと言えば、逆に反発されるかもしれません。本来やるべき指導を掘り下げて信頼を高めるのでなければ生き残れません。ただし・・・塾離れの抑止剤となることは確かであり、また、少しでも継続率UPにつながればと、多少とも期待はしています」

### 子ども手当では塾にとって新たな追い風か？

大手E塾

「多少なりとも追い風になると思いますが、無闇に月謝を高め設定したり、オプションで子供手当と同額かそれ以上を親に求めると反発される可能性はあります。単に通塾しやすくなるだけで、積極的に塾に通う層が増えるわけではないからです。それと、政治は先の見えない分野であり、いつ子供手当がなくなっても大丈夫なようにしておく、新たな対策も必要かなと思っています」

子ども手当で法案

民主党が提出した法案。15歳以下の子どもの保護者に対し、手当を支給することを主な内容。15歳の4月1日の前日までの子どもの保護者に毎月2万6千円を支給する。ただし、初年度のみ月1万3千円の予定。現在の類似制度には児童手当がある。児童手当には所得制限があるが、子ども手当にはない。

# 歴史に学ぶ。

< 後藤 新平のトウキョウ >

## 関東大震災で一ヶ月間の経済機能停止

1923年、関東大震災により、帝都東京と横浜は壊滅的打撃を受けました。その罹災者総数は実に三四〇万人で、うち死者は九万一三四四人、行方不明者は一万三二七五人、負傷者は五万二〇七四人にのぼり、家屋の全焼が四四万七二八戸、全壊・半壊それぞれ十二万余戸にのぼりました。当時の日本経済の中核であった東京市と横浜港はほぼ壊滅状態となり、軍隊が出動し戒厳令が敷かれ、銀行のほとんどが営業不能となったので経済活動は約一ヶ月にわたり停止しました。

この地震による被害総額は、当時の日本銀行の試算によれば約四五億七〇〇〇万円とのことですが、これは当時の国家予算の三倍以上であり、現在の金額にすると数兆円、数十兆円規模の甚大な被害であったわけです。

経済活動については、支払猶予令（モラトリアム）を公布し、金銭債務について一ヶ月の猶予を設け、日銀が四億円を超える震災手形を発行しつつ各地の銀行の再開を目指しました。

しかし、何よりも急がれたのは帝都東京市の機能回復でした。震災の応急対策が一段落すると、政府は帝都復興の具体策づくりと普通選挙の実施を推進しようとしたのです。特に帝都復興の先頭に立ったのが後藤新平（ごとう・しんぺい、1857～1929、岩手県奥州市出身、伯爵）でした。

## 遷都せず・・・最低限の定と帝都復興

内相（内務大臣＝警察、地方行政、選挙他内務行政を管轄した中央官庁の長官）であった後藤新平は、帝都復興の根本策を次のように決めました。

- 一 遷都せず
- 二 復興費三十億円

- 三 欧米最新の都市計画を採用
- 四 地主に対して断固たる態度をとる

当時子爵であった後藤に対して、庶民も政治家も経済人も「大風呂敷」というあだ名をつけていました。欧米型の大規模な都市整備計画を立案し、八億円規模の帝都改造計画を数年前に提案していたからです。

## 七億円余りの帝都復興計画の中身とは？

当初の計画の四分の一にあたる規模の予算で、東京市と横浜港の復興が実施されますが、広大な土地を所有する地主兼政治家と経済人などの抵抗にも合い、後藤の目指す近代的で機能的な帝都にはほど遠く・・・唯一、現在も残る幹線道路網だけは首都機能を支えるインフラとして整備されたのでした。

世界的な規模の都市改造計画で、アジアと世界に誇れる東京市をアピールしたかった後藤でしたが、軍部の不穏な動きも背景として、最低限の復興に収まったわけです。

## ボーイスカウト伯爵

実は、後藤新平は、日本のボーイスカウトの草分け的存在であり、ボーイスカウト日本連盟の初代総長を務めました。活動普及のため私費を投じ、全国を講演会で歩き回っていたのです。人が大事だから、少年少女たちの健康的な活動を支援して健全な育成を広めようとしたのでしょう。彼が知人に残した『遺言』で次のような言葉があります。

「よく聞け、金を残して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ。よく覚えておけ」

取材 / 記事 : 新教育産業監修・月刊私塾界記者 千葉誠一

### 関東大震災

1923年（大正12年）9月1日、神奈川県相模湾北西沖80km（北緯35.1度、東経139.5度）を震源として発生したマグニチュード7.9、海溝型の大地震。千葉県から静岡県東部までの広い範囲に被害をもたらし、戦前に発生した地震では史上最大の被害を与えた。

ご意見・ご要望をお待ちしています。知りたい「テーマ」や内容などについて教えてください。できるだけ対応したいと思っています。ご連絡はこちらまで：magazine@chuoh-kyouku.co.jp